解答・解説　国語　NO.21

〈解答〉

[1]　1　ウ
　　2　イ
　　3　〔例〕おばあちゃんが、「私」にやさしくしてくれて、「私」をほめてくれたから。（35字）
　　4　イ

配点　[1]1、2は各2点、他は各3点　10点満点

〈解説〉

[1]

1　「ざらっとしたもの」とは、「不快な感覚」「違和感」のことで、傍線①の直前に、「もちろん本心で」とあるので、「健介がいるから鼻が高いよ」という真美の言葉自体に「ざらっとしたもの」を感じたのではないことがわかる。傍線①のすぐ後に、編みもの大会で優勝した自分を想像する場面があるが、これは、自分にも自慢できることがあるのに、それを自分からは言い出すことができず、また、母親も真美の編みもののことを、健介と同じように自慢に思ってくれたり、ほめてくれたりするわけではないということに対する「私」の欲求不満から生じた想像である。つまり、「健介がいるから鼻が高いよ」という「私」の言葉の裏側には、自分が本当に言いたいこと（「自分もほめてほしい」「弟のことだけではなく、自分のことにも触れてほしい」）が言えないことへの、歯がゆさや葛藤があるということである。よって、ここでいう「ざらっとしたもの」とは、自分の気持ちをごまかして、本当に言いたいことを言えなかった「私」自身に対する「不快感」や「違和感」を指すのである。

2　［　②　］の前後に、「ただの四角や丸」「色だって二色以上」とあるのに注目する。母親が、健介のことばかりほめて、自分をほめてくれないので、おばあちゃんがいてくれたら、きっと私をなぐさめてくれたはずだと、真美は思っているのである。

3　傍線③の直前にある「おばあちゃんだけは、いつでも私を『いちばん』だって言ってくれた。真美ちゃんはほんとうにいい子だねえ。なんでもいちばん。いっとうしょう。そう言って、膝に抱えていつも頭をやさしくなでてくれた」とあるのに注目する。母親が、健介のことばかりほめて、自分をほめてくれないので、おばあちゃんがいてくれたら、きっと私をなぐさめてくれたはずだと、真美は思っているのである。

4　編みもの大会で優勝する自分を想像していることから、イ「寂しがりや」「自分も注目されたい」真美が、そして本文の最後の部分に、「姉の私ときたら……なにをとったってふつう以下。編みものが得意だからって、そんなのなんの自慢にもならない」とあることから、「自分に自信がもてずにいる」真美の様子が、それぞれ導き出される。